春からスタート！　コギク栽培

コギクは盆、彼岸を中心に根強い人気があります。また、最近ではスプレーギクとの中間タイプも出現し、洋風花材としての需要も増えてきています。

来年に向けたコギク栽培は春からスタートです。ここでは親株養成から切り花までのコギクの栽培管理について紹介します。

1　親株養成

・親株選抜・・・　花色が鮮明で品種の特性（茎葉の揃いが良く、病害虫に侵されていないなど）を備えたものを選びます。切り花時に注意深く観察し、元親株に目印を付けておくと良いでしょう。

・親株定植・・・　親株は 15～20 cmの株間で定植します。基肥は1a当たり堆肥 200kg、有機化成肥料などで窒素成分 1.0kg程度施します。必要に応じて液肥などで追肥を行うと良いでしょう（1a当たり親株数 150 株程度必要です。）

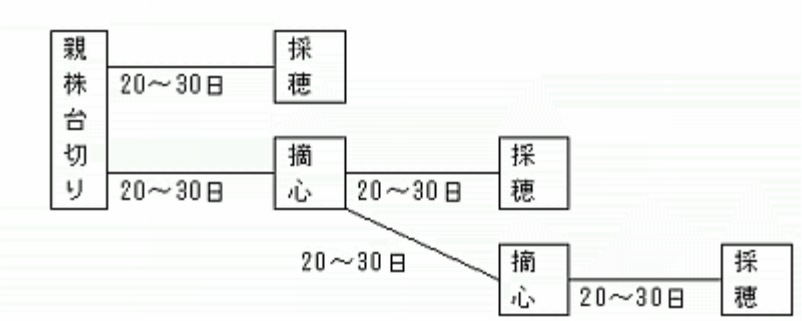


図1 基本的な採穂までの流れ

８月咲きコギクの採穂までの流れ

・８月出しは低温期の挿し芽となるため、親株は、施設内もしくはトンネルで栽培します。

・摘心により脇芽を発生させ、増殖を図ります。最終摘心は低温期では 30～40 日前に行いましょう。

・採穂２～３日前には殺菌剤を散布して、病気を持ち込まないようにします。

親株養成時の管理ポイント

・低温期に育苗する場合は、肥料不足になることも多いので適宜、液肥を施用します。

・春先はビニルハウス内、トンネル内が高温になりやすく 25℃以上にならないように晴天日は換気を行い、病害虫防除を徹底しましょう。

・極端な乾燥、過湿にならないようにこまめな水管理を行います。

2　挿し穂

・展開葉が6～7対出た時、採穂します。挿し穂の大きさは5～6cmで展開葉数3枚くらいに調節します。

・水揚げ後、切り口に発根促進剤を処理してパーライトなど無病で清潔な用土に葉が触れあうくらいの間隔で挿します。

表1　作型別の挿し芽・定植の時期

作型	挿し芽時期	定植時期
7月出し	3月上中旬	4月上中旬
8月出し	3月下～4月上旬	4月中旬
9月出し	4月下旬	5月中旬
10月出し	5月下旬	6月上中旬
11月出し	6月上旬	6月下旬
寒コギク	6月下旬	7月上旬

3　定植準備

・連作ほ場では特に土壌消毒をしておきます。

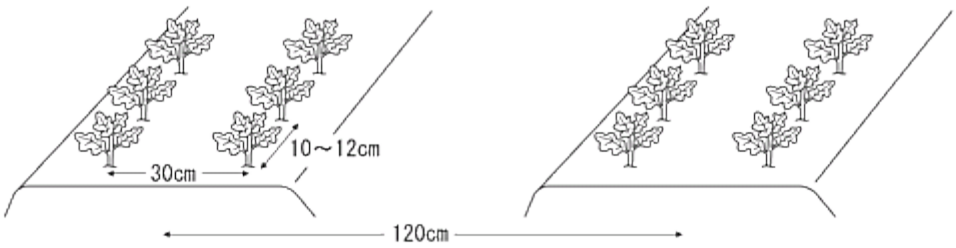
・1a当たり堆肥 300kg を施用し、石灰などで pH6.5 に調整後、植え付け2週間前には基肥を施用し耕耘、畝立て後、整地します。

・定植2～3日前には十分かん水しておきましょう。

4　定植

・根が 1.0～1.5 cmに伸びた時に定植します（老化苗の定植や深植えは厳禁です）。

・栽植密度は条間 30 cm、株間 10～12 cmの2条植えとします。



5　施肥

・施肥量は、ほ場や品種によって異なりますが、窒素過多は草姿が乱れるので注意しましょう。

・追肥は生育を見て、2回（摘心後～整枝時、草丈伸長期～花芽分化前）に分けて行います。

成分(kg/a)	総量	基肥	追肥
N	2．0	1．0	1．0
P_2O	1．5	0．8	0．7
K_2O	1．8	1．0	0．8

6　管理

(1)摘心

定植 10 日前後して十分活着したら、4～5節残して摘心を行います。

(2)整枝

摘心 20～30 日後、揃った側芽を3～4本残します。

(3)かん水

　生育初期は十分かん水して生育を促進させます。
梅雨期は過湿にならないようにほ場周囲の排水溝を点検し、排水対策を行います。降雨により根の活性が低下したときは液肥 1，000 倍の液肥を2～3回施用し、生育の促進を図ります。
梅雨明け後は敷きわらなどを行い、過乾燥を避けるようにします。
収穫前はかん水を控えて水揚げを良くします。

(4)支柱、ネット張り

　草丈が 20 cm程度伸びた頃、支柱間隔 1.5～1.8m間隔にして、高さ 30 cmに 15～20 cm　角目のフラワーネットを張り、生育に応じて引き上げます。

(5)病害虫防除

　梅雨期の白さび病に特に注意が必要です。害虫ではアブラムシ類、ハダニ類、ア　ザミウマ類、マメハモグリバエなどに注意が必要です。膜割れ期以降に密度が高い　と花弁にしみができ著しく商品性を損ないます。

(6)切り花

・早朝など涼しい時間帯に切り花を行い、3～4分咲きで切り花し、水揚げを行います。

(戻る)